

□議員名：伊場 勇

1 生成A I サービス「C h a t G P T」について

論点	本市の業務において生成A I サービスをどのように位置づけているか。
回答	その情報を行政が使用するものとして、ふさわしいかどうかは職員自身が確認する必要があり、全幅の信頼を置くのではなく、一緒に仕事をしていく頼れるパートナーであると考えている。

論点	生成A I サービスを学校現場で活用する予定はあるか。
回答	学校現場での利用に関するガイドラインは、文部科学省から示される予定となっている。また、これからの時代を生きる子供たちは、新たな技術を学習の基盤となる資質能力として自身の成長のために使うことができるよう育てていくことが必要であると考えている。

論点	本市は今後生成A I サービスをどのように展開していくか。
回答	生成A I は、業務の効率化を劇的に加速すると考えている。日本情報通信株式会社と連携して、ガイドラインを作るほか、生成A I を業務に活用しやすい環境を整備し、職員への研修を行いながら、適正で効果的な業務の効率化を図っていく。

2 本市の農業振興と山口東京理科大学との関わりについて

論点	山陽小野田市立山口東京理科大学の大学生が本市の農業に関わることは、将来的にどのような効果があると考えているか。
回答	喜びや感謝の気持ちが芽生え、農業への理解や教育的効果が生まれると考える。また、地域との触れ合いなどを経験することで社会性が生まれ、たとえ将来、都会で農業以外の職業を選択されたとしても、農業体験は記憶の片隅に残り、家庭菜園をしてみたいなどと思うきっかけになり、さらにはそれらを通じ山陽小野田市を第二のふるさとと感じていただければ思っている。また、食生活への一定の改善があると考えている。

論点	具体的な施策として、大学生が農業アルバイトとしてお手伝いしやすい環境を市は支援する考えはあるか。
回答	担い手不足や高齢化、耕作放棄地の増加などを解決するため、まずは農業者がアルバイトを必要としているのかを調査し、実情に応じて大学と連携を図りながら農業アルバイトの求人を紹介するような支援の仕組みづくりを今後研究したいと考えている。

3 地方選挙の投票率について

論点	約40%以下の低い投票率について危機感を持っているか。
回答	常に危機感を持っている。取組はしているが、現状なかなか投票率が上がらない状況である。これからも引き続き研究等していく。

論点	投票率何%を目指しているのか。
回答	まずは50%以上を目指していくが、難しい状況である。

論点	協創によるまちづくりを推進する一つの指標として、投票率を加えるべきではないか。
回答	進捗を図るための指標は設定していないが、協創によるまちづくりは、第二次総合計画中期基本計画において、本市のまちづくりの根幹となる考え方として位置づけていることから、中期基本計画に基づく施策及び事業を進めていくことが、同時に協創によるまちづくりを推進していくことにも通じるものと考えている。